

職員の皆さんへ

早くも2月です。平成27年新春の新たな決意を誓い合ってから早くも一ヶ月が経過しました。

昨年末に発生した本市館浦漁協所属の旋網漁船第一号源福丸沈没事故については、3名の死者と2名の行方不明者を出すという大変悲しい結果となり、この2日には亡くなられた方と生存が絶望視される方々の合同葬が執り行われます。皆様とともに衷心よりご冥福をお祈りしたいと思います。

先月も申し上げましたが、生活環境や労働環境において最も優先されるべきはやはり「安全」です。安全が保障されるからこそ安心して物事に取り組むことができ、その成果も保障されることとなります。そうしたことを強く再認識している時、嬉しいニュースが入りました。それは本市が進めてきた市内各自治会による自主防災組織の結成状況が先月15日付けで「結成率100%」を達成したことです。市内163地区全ての市民の皆さんがこの組織化に合意され、『自分たちの安全は自分たちが守る』という自覚の下に真剣に考えて行動して下さったことは、県内でも珍しく画期的な偉業とさえいえるのではないのでしょうか。

まさに市内全域に『備えあれば憂いなし』の街づくりが実現したことで、今後はそれぞれの組織内で防災士を育成していただくなど具体的な体制づくりと相互のネットワークの構築によって、よりキメの細かい安全安心なまちづくりに邁進していきたいと思えます。

さて、皆さんご存知の通り、平戸市のふるさと納税制度による寄附額が13億円を突破し、日本一という実績を成し遂げました。ここに至るまでには、事業の企画立案から実践、そして返礼品の供給現場との連携に昼夜を分かたず努力しつづけた担当職員各位に対し、心から賞賛と労いのことばを贈ります。

本事業に対する私の考えについては、別途ブログにて公開していますので、参照していただくとして、これからの更なる課題について幾つか申し上げます。

これまで得た情報によれば、本事業が自治体間で過熱気味になっていることから、本来の寄付行為としてのあり方が問われており、それは必ずしも本市の戦略が評価されることになりにくい状況にあるということです。従って、そうした逆風に対して次なる戦略を講じなければならないということを念頭に置かなければなりません。

またこれだけ寄附が殺到することで、供給現場の調整も必要になってくることも考えなければなりません。平戸市の特産品が全国に拡販されることは喜ばしいことであって、まさに私たちの物産戦略が目指すことではありますが、今こそ生産現場の安定や継続操業、品質確保など更なる信頼構築のために為すべき業務が出てくることが予想されます。決して一過性の忙しさではなく、将来的に成長できるような事業進化を遂げなければならないと思えます。忙しさを解決するには二つの方策しかありません。一つは設備投資、もう一つは雇用確保です。まさにこのことは人口減少に悩む本市の一番の目的であり解決策はないのでしょうか。

そのために「平戸市中小企業・小規模事業の振興に関する条例策定会議」において、私から金融機関関係者にも申し入れをさせていただいておりますし、このことによって経済活性化へとつないでいければと思っています。

そしてこの事業を全国の寄附者の方々に評価していただくのは、実は返礼品だけではなく、寄付金の使い方であると確信します。「返礼品はもちろんだが、過疎地の平戸でこんな形で役に立つことができた」と喜んでもらえて初めてこの事業の意義が評価されると思います。そのためには組織横断的に知恵を絞り、真に平戸市の生活環境や子育て支援をはじめ、不便を強いられてきたことが解決に向かうきっかけにつながることを寄附者は待ち望んでおられると思います。これまで積み上げてきた実績をさらに揺るぎないものに育て上げるための本当の知恵比べはここからです。全職員の総力を結集してそうした意味のある活用策を導き出してまいりましょう。

さて先月 15 日から 22 日までの間、中村県知事を団長とするバチカン訪問団に参加し、フランスのユネスコ本部やバチカン市国など世界遺産登録を支えてくださる方々との面談に行くなど一定の成果が得られたものと確信しました。その中で改めて認識させられたのは、本市が有する資産に対する私たちの捉え方と西欧の方々の違いでした。当然のことながら教会堂の荘厳さは本家本元のヨーロッパの数々の教会堂にかなうはずがありません。

そんな中であって本市教会堂における西洋建築と和風建築との融合は特筆すべき魅力ではありますが、それ以上に 400 年の長きにわたり迫害を受けてきたカクレキリシタンの存在と日本人特有の「宗教への寛容性」ならびに「多様性の共生」という観念が注目されているという事実です。まさに平戸市には、カクレキリシタン資料が多数現存しておりますし、「宗教への寛容性」と「多様性の共生」の象徴とも言うべき「教会と寺院の見える風景」という佇まいがあります。これこそが西欧から見た場合驚愕に値する資産だと思っています。

従って本市は、他の構成資産を有する自治体のリーダー的立場に立って、この事業を成功へと導く責任を強く感じた次第です。

また先月末には中村知事が定例会見で欧州歴訪の総括として「教会群の推薦が決まったこの時機に関係首長とともに訪問したことについて、ユネスコ本部の世界遺産センター所長から『関連遺産の保存活用でまとまりのある態勢ができている』との高い評価を頂いた」と述べているように、今回の歴訪は今後の世界文化遺産登録認定に大きく貢献したものだと思っています。

今後は本市のカトリック信者の方々との連携を更に緊密にし、またこれまで先人からの尊い祈りを守り続けてこられた方々との信頼をより強固なものにしながら、世界に誇れる資産保護と地域の活性化につなげてまいりましょう。

いよいよ年度末を控え、また予算議会である 3 月定例市議会を目前に各課それぞれ慌しいことと思います。予算査定を経て上程する事業や新しく策定する条例などをさらに精査し、説明責任を果たせるよう綿密な準備をしてください。

いま全国的にインフルエンザが猛威をふるっています。私どもの使命の一つに市民の皆様の健康な生活を守ることも最優先の課題であり、そのためには先ずわれわれ自身が健康に注意してこうした疾病の予防や感染防止に心掛けなければなりません。お互いに心身ともに快適なコンディションを保ちながら、ベストを尽くして頑張ってください。

皆様のご奮闘に期待します。

平成 27 年 2 月 2 日

平戸市長 黒田 成彦